

## 学力向上通信より（一部抜粋）

今年度より、学力向上推進コーディネーターを中心に学力向上の推進を強化しています。その一つの取組として職員に向けて「学力向上通信」を定期的に発行し、本校の課題を明らかにした上で、共通理解をもって児童の指導に生かしていく取組を進めています。

### 【豊成小学校の児童が苦手だと思われる傾向】

- ① 文章を正しく読み取ること（平均正答率はよかったが…）
- ② 文章を書くこと
- ③ 答えを導き出すまでの順序を筋道立てて説明すること
- ④ 他者との話合いによって、自分の考えを深めること
- ⑤ 日常生活と関連させること

## 【具体的な方策として】

### ① 文章を正しく読み取ること

- ◎音読カードを活用し、読むことの楽しさを味あわせる。
- ◎初見の文章への抵抗感をなくす上でも、日常的に読書の時間を確保する。
- ◎機会あるごとに、テストの意義を子どもたちに伝える。

### ② 文章を書くこと

- ◎型や枠、書き始めの文、例などを提示したり、友達との交流や教師のはたらきかけの時間を設定したりしてから書く学習する。
- ◎授業中の交流の前や「まとめ」の際などに自分の考えを文章に書く時間を設定する。
- ◎作文指導は、時間は掛かるが、大切な取組なので、学年で吟味し、焦点化して取り組んでいくことができるようにする。

### ③ 答えを導き出すまでの順序を筋道立てて説明すること

- ◎順序を表す言葉を活用する。
- ◎説明し合う活動を適宜取り入れる。（ペア、グループ、全体）

### ④ 他者との話合いによって、自分の考えを深めること

- ◎研究部から出されている「学び合う発表」について、全学年を通して十分に活用する。
- ◎交流する目的を教師も子どもも明確にしてから行わせる。自分と違うところや同じところ、感心したところなどを感じながら友達の考えを聞くように指導していく。

### ⑤ 日常生活と関連させること

- ◎どの教科においても、身近な目を向け、関連させていくことは可能であり、そのようなアンテナを伸ばしていくことが大切である。
- ◎授業中のみならず、朝の会や帰りの会などの場で、話す時間を確保する。